vinetur

# EUの2026年ワイン生産量、今世紀で最少の3年に

OIVはEUのワイン生産量を1億3,700万ヘクトリットルと予測。2025年比1%増ながら、記録的な暑さで5年平均を6%下回る

2026年11月19日（木）



国際ブドウ・ワイン機構（OIV）は11月18日水曜日、フランスのディジョンで、気候面の圧力と市場環境が引き続き業界に重くのしかかるなか、2026年の世界のワイン生産量は前年に近い水準にとどまるものの、5年平均を下回る見通しだと発表した。

2026年の収穫に関する初の推計で、OIVは欧州連合（EU）のワイン生産量を約1億3,700万ヘクトリットルと予測した。2025年比では1%増だが、5年平均を約6%下回る。これが確定すれば、2024年、2025年、2026年は21世紀に入ってEUで生産量が最も少ない3年となる。それでも、2026年の世界のワイン生産量に占めるEUの割合は約61%となる見込みだ。

OIVによると、西ヨーロッパでは2026年、観測史上最も暑い夏となった。長引く高温と水不足によって果粒の成長が抑えられ、多くのワイン産地で収穫が前倒しされた。一部地域では春霜による被害も加わった一方、十分な水分が確保され、適切な時期に降雨があった地域では生産が支えられ

た。OIVは、フランスとイタリアで収穫量が落ち込み、中欧の複数国でも減少した一方、スペイン、ポルトガル、ルーマニアでは回復し、大陸全体でばらつきの大きいシーズンになったと説明した。

2026年もイタリアは世界最大のワイン生産国となる見通しで、生産量は4,100万ヘクトリットルと推計されている。2025年比で8%減、5年平均比で10%減となる。OIVによると、2000年以降で2番目に少ない収穫量となり、最低を記録した2023年を7%上回る水準にとどまる。夏の高温と長期の乾燥により成熟が早まり、異例に早い収穫となった一方、収量も制限された。

世界第2位の生産国フランスの生産量は3,650万ヘクトリットルに達する見通しだ。2025年比では2%増となるものの、5年平均をなお10%下回り、比較的低い生産量が3年連続する。OIVによると、国内の広い範囲で高温と干ばつにより収量が大きく落ち込み、一部地域では霜害も加わった。シーズン後半の降雨で一部回復したものの、生育期の水不足による損失を取り戻すには至らなかった。

スペインは生産量3,260万ヘクトリットルで、世界第3位の生産国を維持する見通しだ。2025年比で13%増、5年平均比で2%増となる。干ばつの影響を受けた少量収穫が3年続いた後の増加となるが、OIVによると、生産量は依然として過去の水準を下回る。熱波が繰り返し発生したことも、国内で記録されたなかで最も早い収穫期の一つにつながった。

EUのその他の主要生産国では、ドイツのワイン生産量は800万ヘクトリットルと推計され、2025年比で6%増、5年平均比で3%減となる。OIVによると、高温で乾燥した生育期に成熟が早まり、果粒の成長が抑えられたため、収穫は例外的に早まった。

ポルトガルの生産量は670万ヘクトリットルと予測され、2025年比で12%増となるものの、5年平均を4%下回る。OIVによると、冬の降雨で土壌水分が回復し、ブドウ樹の生育が促されたが、その後の高温と水不足により、複数の産地で収量が制限された。

ギリシャの生産量は170万ヘクトリットルと予測され、2025年比で1%増となる。OIVによると、これは2023年と2024年の少量収穫からの回復が続いていることを示す。それでも、春霜と局地的なひょうによって収量が減少し、生産量は5年平均を7%下回る。

中欧と南東欧の状況は一様ではなかった。ルーマニアでは地域内でも特に大きな回復が見られ、生産量は460万ヘクトリットルと推計されている。2025年比で40%増、5年平均比で19%増となる。OIVによると、春の終わりから初夏にかけての降雨が主要産地で水分を回復させ、生産の持ち直しを支えた。

ブルガリアとスロベニアでも生産量の増加が見込まれる。ブルガリアは70万ヘクトリットルで17%増、スロベニアは50万ヘクトリットルで5%増と予測されている。

一方、この地域のほかの国々では収穫量が大きく減る見通しだ。ハンガリーの生産量は180万ヘクトリットルと推計され、2025年比で31%減となる。春霜の後に、例外的に暑く乾燥した夏が続いた。オーストリアも180万ヘクトリットルと予測され、30%減となる。OIVによると、深刻な干ばつと高温で果粒の成長と果汁の収量が減少し、とりわけ東部のワイン産地で影響が大きかった。

クロアチアでも生産量は60万ヘクトリットルと推計され、29%減となる。チェコは50万ヘクトリットルで24%減、スロバキアは20万ヘクトリットルで33%減と見込まれる。OIVによると、これらの国々では産地全体が高温と水不足の影響を受け、生産量は平均を下回った。

今回の推計は、近年の低水準から生産が回復した国でも、欧州のワイン生産が引き続き天候に大きく左右されていることを示している。OIVによると、夏の極端な高温、長期の干ばつ、局地的な霜害、降雨の偏りが重なり、多くの生産者が収穫の前倒しと収量の減少に直面した。その結果、複数の市場で生産が増えたにもかかわらず、全体の生産量は平年を下回る見通しだ。